



おじいさんに習った竹とんぼ

夏休み前のことです。

「来週の土曜日は、朝から昔の遊びをします。そのときの先生は、老人クラブのおじいさんやおばあさんです。竹とんぼとお手玉を作ります。」
と、いつものように大きな声で先生が、にこにこしながら話されました。

みんな、

「やった。」

と大喜びです。

おじいさんやおばあさんたちといっしょの勉強は、とても楽しいと、お兄さんたちから聞いていたので、みんなも、早く勉強したいなどと楽しみにしていたのです。

土曜日になりました。ぼくは、六年生のお兄さんたちといっしょに、竹とんぼ作りのはんになりました。

おじいさんのごあいさつがあつて、いよいよ作業です。

「羽根になる竹の中心のとり方は知っとるね。コンパスや定規じょうぎを使わんでも決められるとよ。」

こうやって、竹くずば半分ぐらいに折おって、

右からと左から、ナイフで印いんをつけて。この

二つの線の真まん中が中心たい。」

「わあ、すごか。竹くずだけで、中心の決められるとね。」

川原かわはらさんが、おどろいた声をあげました。

竹とんぼは、表を深く、うらを浅あさくけずつて、
うすい羽根はねを作るのです。けれども、竹をけずりすぎたり、羽根が厚あつすぎたりして、友だちはあまりうまくいっていません。

ぼくは、上手じょうずではないけれども、熊本くまもとのおじいさんに習つて、何回か作ったことがあつたので、少しは自信がありました。

「次は、竹とんぼの心ぼう作りばい。よう見と
かんね、ナイフは右手に持って、左手で竹ば
ゆっくり引っぱって作つとよ。」



みんなは、おじいさんが作るのを、目を大きくしてのぞいていました。おじいさんの手は、しわがあつて大きな指でした。竹をけずるとき、肉がもり上がります。

昔からこうして、遊び道具を手で作り出してきたおじいさんやおばあさんを、ぼくはすごいなと思いました。

「じいちゃんは、ぼくたちぐらいの年のときも、作りきりよつたんですか。」

とたずねると、おじいさんは笑わらいながら、

「昔は、今のごとテレビもなかったし、こうして竹とんぼとか、竹馬とか、笛とか、自分たちで作つて、みんな外で、くろうなるまで遊んどつたとばい。」

と、小さいころの話をしてくださいました。

ようやく竹とんぼも、完成したので、みんなで



飛ばし始めました。六年生のお兄さんたちの中には、大空高く上がるのもありました。ぼくは自信があつたけれども、飛ばしてみると心ぼうがぶれて、あまり上がりません。おじいさんが、

「心ぼうの太すぎるごたる。もう少しけずつてみんなね。」
と、言うてくださいました。

心ぼうをけずつて、

「上がれ、上がれ。」

と、声を出して飛ばすと、ぐうんと上がりました。

ぼくはこの日、うれしくてたまりませんでした。

夏休みには、友だちといっしょにおじいさんのところに行つて、昔の遊びなど、いろいろ教えてもらいたいと思いました。

〈みんなで考えよう〉

一、おじいさんやおばあさんに、何か習ったことがあったら、そのときの気持ちを話し合ってみましょう。

二、みなさんがこれから、おじいさんやおばあさんに習いたいことはどんなことですか。



じいちゃんとはあちゃんの二人三脚

わたしのじいちゃんは、七十三歳とは思えないくらい、元気いっぱいだ。朝は早くから草かり。お父さんとお母さんが働いているから、雨の日も風の日も、弟と妹を保育園に送りむかえ。それから毎日、ばあちゃんを、足の病院に車で連れていく。ばあちゃんは、犬の散歩に出ようとした時、転んでリハビリをしている。

じいちゃんもばあちゃんも、元気で、よく口げんかしていた。そこに、お母さんが入ったら、もうたいへん。わたしが、

「もういいー。」

と言ったら静かになる。にぎやかなのか、さわがしいのかわからないくらいだ。

それが、あの日以来変わってしまった。ばあちゃんが家のろう下で転んだ。

「真琴助けて。」

と、さけび声が出たのでびっくりして行ってみると、足が曲がって、変なかつこうになっていた。お父さんもお母さんもない。わたしは救急車に電話した。お母さんはすぐに

病院に来た。

先生の説明を聞いて、お母さんは

泣きながら、

「ばあちゃんの足のなくなるかもしれない。よくても車いすに乗らんばいかなかもしれない。でも、じいちゃんにはだまつところ。」

と言った。

そのあとすぐに、ばあちゃんは手術をしたけど、ぐったりしていた。

じいちゃんは、毎日ばあちゃんのお見まいに行った。わたしや弟や妹が行くと、ばあちゃんはうれしそうに笑って、一人一人だっこしてくれた。



ばあちゃんは、あったかい。何かほつとするんだ。

ばあちゃんの退院の時、じいちゃんはうれしそうに車でむかえに行った。ばあちゃんは足も切らなくて良かったし、杖を使えば、あと十年くらいは大丈夫と言われた。でも、杖をついても、足をひきずって歩いているばあちゃんを見ると悲しい。

ばあちゃんが退院してしばらくして、じいちゃんがたおれた。脳こうそくという病気だ。お見まいに行っても、いつも天井ばかり見ていた。動いたらいけないらしい。

「目の見えん。」

じいちゃんは、もう何十年も欠かさず日記をつけている。それができなくなるんじゃないか、わたしはとつても心配になった。

ばあちゃんは、毎日、杖について足を引きずり、バスに乗ってじいちゃんのお見まいに行った。休みの日は、みんなでお父さんの車で行った。少しずつ、じいちゃんは良くなってきたけど、今までのようにふつうに歩けない。左目が見えなくなったからだ。

お母さんも、このごろ元気がなくなった。

「じいちゃんと、口げんかしようとしたところがなつかしか。」

と、目になみだをいっぱい
ためて話す。なみだが
あふれて、鼻水まで出て、
顔がぐしゃぐしゃになる
くらい泣いているお母さん
は、子どもみたいだ。だけ
ど笑う気にはなれない。

「これから、どうなるんだ
ろう。」と、わたしは、
少し心配になる。

じいちゃんの退院の時、
みんなでむかえに行った。
わたしと弟と妹の三人で、
じいちゃんの手を引いた。



弟と妹は何もわからなから、じいちゃんの手には、ぶらさがろうとする。じいちゃんがたおれそうになると、お母さんが、

「こら。」

としかる。お父さんはいつも静かにだまっている。

やっと家族がそろった。わたしは塾も習い事もやめてしまった。いつもじいちゃんが送ってくれていたから、どれだけ、じいちゃんに助けてもらったか、今になってわかった。

あいかかわらず、じいちゃんとお母さんの口げんかはたえず、

「耳の聞こえんけん、大きい声で言っで。」

何だか、前のさわがしい家にもどったみたいでうれしい。じいちゃんは、目が見えなくなっってしまった。お母さんは、足が不自由になった。でも、二人を見ていると、一人に見えてくるんだ。じいちゃんは、お母さんの足となり、お母さんは、じいちゃんの目となって、二人で歩いている姿は、何だかほっとする。お母さんも元気を取りもどして、仕事のない日は、じいちゃんとお母さんを病院に連れて行っている。

じいちゃんは、今、一生けん命に字の練習をしている。まだ、読みにくい字だけれど、ぜひに書けるようになるよ。だって、負けずぎらいのじいちゃんだから。

お母ちゃんも、家でリハビリをしている。ぜひに良くなるよ。わたしは、また、じいちゃんとお母ちゃんと、みんなで花見に行ける日がくるような気がした。



〈みんなで考えよう〉

- 一、身近なお年よりから、喜ばれることをしたことがありますか。
- 二、身近なお年よりに、これからどのように接していけばよいか、学級の友だちや家族と話し合ってみましょう。



お年よりの生活を知ろう

お年よりは、これまでわたしたちを育て、幸せな社会づくりのために働いてきました。

今も、いろいろな場で生きがいをもって、活躍しながら、自分の人生を楽しんでいます。

ボランティア活動



多くの方がボランティアとして活躍しました。
(長崎さるく博'06)

得意なことを生かして



シルバー人材センターを通して、自分の得意なことを生かして活躍しています。

好きなことを勉強して



いきいき高齢者大学で学んでいます。

健康づくり



楽しくゲートボールをしています。

老人ホームやグループホーム

老人ホームやグループホームは、お年よりが自分らしく生活できるように、身のまわりのできないことを、おたがいに助け合ったり、ホームの職員や地域の人たちの力をかりたりして、仲間と楽しくふれ合いながら共同生活をしているところですよ。

特にグループホームでは、お年よりは、自分で料理をしたり、家事や仕事をしたりして、助け合いながら生活しています。認知症のお年よりも、昔の経験を生かしてくらしています。

老人ホームやグループホームでの生活



リハビリもかねて、ほしがきづくりをしています。



バザーのためにお料理をしています。



地域の人といっしょに、お祭りを楽しんでいます。



急な階段もがんばって上り下りしています。



地域のお祭りで活躍しています。



年をとるってどんなこと

「老いる」を辞書で調べてみると、

- ①年をとる
- ②年をとっておとろえる
- ③お年よりとあります。

お年よりの中には、足が弱くなったり、目が見えにくくなったりと、他の人の手助けが必要な人たちもいます。

しかし、お年よりは、これまでにいろいろな経験をつみ、たくさんのお苦労をのりこえて、今の豊かな日本をきずいてきました。

わたしたちは、お年よりから、多くのことを学ぶことができます。



10才（昭和13年）



80才（平成20年）

七十年後の自分を
そうぞうしてみよう。

昭和3年	誕生
昭和9年（7才）	尋常小学校入学
昭和13年（10才）	尋常小学校四年生
昭和20年（17才）	原爆の被害にあう
昭和30年（27才）	結婚する
昭和33年（30才）	子どもが生まれる
昭和42年（39才）	家建てる
昭和63年（60才）	退職後ボランティアを始める
平成元年（61才）	孫が生まれる

〈みんなで考えよう〉
あなたのお身のまわりには、
どんなお年よりがいるか、
話し合ってみましょう。

〇認知症

みなさんは、認知症という病気を
知っていますか？

「認知症」は、物事をおぼえたり、理解したり、
判断したりする力が低下する、脳の病気のこと
です。

みなさんは、朝起きて何をやればいいのかかわかっ
ていますね。認知症の人は「何時」に「何をする」
のか、わからなくなってしまう。また、つい
さっきの事をわすれたり、同じ事をくりかえした
りしてしまいます。そして、とても不安な気持ち
になってしまいます。

そんなときは、やさしい笑顔で手をさし出して
ほしいのです。あなたも、やさしくよりそってみ
ませんか。



お年よりの
方が、とても
喜んで
いるね。



わたしたちも
できること
から
やってみ
たいね。





お年よりと交流をしよう

交流では、お年よりが楽しみにしていることを聞いたり、昔の遊びを教えてもらったりして、楽しい時間をすごせるようにしましょう。

お年よりに喜んでもらえる活動を考えてみましょう。

どんなことに気をつけて交流すればいいのか考えてみましょう。

体験して、発見しよう

お年よりの体のことを知って、相手の気持ちになって手助けの方法、話し方などについて考えましょう。



高齢者疑似体験をしています。

話をしてみよう

交流のスタートは話をするこ
とです。相手の話を聞いたり、
自分のことや学校のことを話
したりしましょう。



おばあちゃん元気ですか。

- ・ 明るくあいさつをして、握手から始めよう。
- ・ 相手の目を見て、同じ目の高さで話そう。
- ・ ゆっくり、はっきり話そう。少し低い声がよく聞こえるよ。

楽しく、ふれあってみよう

お年よりは、いろいろなことを経験し、多くのことを知っているわたしたちの大先輩입니다。

地域には、元気なお年よりや体の不自由な方など、さまざまな人が生活しています。交流するときはお年よりの気持ちを考え、相手のペースにあわせて行動しましょう。



福祉しせつでの交流



お年よりも知っている曲をえんそうしています。

風船バレーをしています。

地域のお年よりとの交流



ゴムじゅうの作り方を教えてもらっています。



老人クラブの方と花植えをしています。



〈みんなで考えよう〉

交流をして、感じたことやわかったことを話し合いました。



デンマークのお年よしのくらし

デンマークでは、お年よしが住みなれた自宅でのくらしを続けられるように力を入れています。



電動ベッド



親しんできた家具がおかれている高齢者住宅の居間

障害がおもく、自宅でのくらしができなくなったときには、「高齢者住宅」に移り住むことができます。「高齢者住宅」には、自分で動くことができるように、補助器具などが取り付けられており、部屋にはいろいろ工夫がされています。

イギリスの福祉

イギリスは、古くからボランティア活動がさかんな国です。

イギリスの人々は、昔から「だれもがくらしやすいまちづくり」に取り組んできました。

日本も、イギリスの福祉に多くを学びました。

長崎県内にも、ノンステップバスやシヨップモビリティが取り入れられています。

イギリスのシヨップモビリティ

シヨップモビリティとは、お年よりや障害のある人にも、買い物や外出を楽しんでもらうためのサービスです。



電動スクーターや車いすの貸し出しをします。必要ときには、ボランティアが付きそい、いっしょに買い物をします。



電話をかける、家から商店街まで車で送りおかせしてくれます。

車いすごと乗りこめるタクシーです。



▲ロンドンのタクシー

ロンドン市内を走るバスの多くは、車いすでも利用できます。



▲ノンステップバス